

CASBEE-建築(新築)2014年版

鳥取銀行米子営業部

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.1.22)

スコアシート 実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						2.8
Q1 室内環境			0.40	-	-	2.7
1 音環境		3.0	0.15		-	3.0
1.1 騒音		3.0	0.40		-	
1.2 遮音		3.0	0.40		-	
1 開口部遮音性能		3.0	0.60		-	
2 界壁遮音性能		3.0	0.40		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-		-	
1.3 吸音		3.0	0.20		-	
2 温熱環境		1.8	0.35		-	1.8
2.1 室温制御		2.6	0.50		-	
1 室温		2.0	0.38		-	
2 外皮性能		3.0	0.25		-	
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38		-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20		-	
2.3 空調方式		1.0	0.30		-	
3 光・視環境		3.6	0.25		-	3.6
3.1 屋光利用		3.0	0.30		-	
1 屋光率		3.0	0.60		-	
2 方位別開口			-		-	
3 屋光利用設備		3.0	0.40		-	
3.2 グレア対策		3.0	0.30		-	
1 屋光制御		3.0	1.00		-	
3.3 照度	事務室平均照度500lx以上	4.0	0.15		-	
3.4 照明制御	1作業単位での制御可能	5.0	0.25		-	
4 空気質環境		3.0	0.25		-	3.0
4.1 発生源対策		3.0	0.50		-	
1 化学汚染物質		3.0	1.00		-	
4.2 換気		2.3	0.30		-	
1 換気量		3.0	0.33		-	
2 自然換気性能		3.0	0.33		-	
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.33		-	
4.3 運用管理		4.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50		-	
2 喫煙の制御	敷地内禁煙としている	5.0	0.50		-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.2
1 機能性		3.5	0.40		-	3.5
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40		-	
1 広さ・収納性		3.0	0.33		-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33		-	
3 バリアフリー計画		3.0	0.33		-	
1.2 心理性・快適性		4.3	0.30		-	
1 広さ感・景観	天井高2.7m以上、平面プランで可能なことは窓を設置	4.0	0.33		-	
2 リフレッシュスペース	食堂(54.25㎡)を休憩スペースとしている	4.0	0.33		-	
3 内装計画	内観ベースで素材を具体化し、照明計画も併せて行っている	5.0	0.33		-	
1.3 維持管理		3.5	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計	材料の適材適所を考慮し、清掃、メンテナンスのしやすい材料としている	4.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性		2.7	0.30		-	2.7
2.1 耐震・免震		2.2	0.50		-	
1 耐震性		2.0	0.80		-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.5	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-	
2 外壁仕上材の補修必要間隔		3.0	0.20		-	
3 主要内装仕上材の更新必要間隔	更新間隔を最低20年で想定している	4.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	適正な更新間隔を想定している	5.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20		-	
2.4 信頼性		2.8	0.20		-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20		-	
3 電気設備		3.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5 通信・情報設備		3.0	0.20		-	
3 対応性・更新性		3.4	0.30		-	3.4
3.1 空間のゆとり		4.2	0.30		-	
1 階高のゆとり	階高3.9m以上としている	5.0	0.60		-	
2 空間の形状・自由さ		3.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり		3.0	0.30		-	
3.3 設備の更新性		3.2	0.40		-	
1 空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性	躯体を痛めることなく更新を可能としている	4.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	

Q3 室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出		1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮		2.5	0.30		-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPlm=0.82	4.0	0.20		-	4.0
2 自然エネルギー利用		3.0	0.10		-	3.0
3 設備システムの高効率化		4.0	0.50		-	4.0
集合住宅以外の評価(3a,3b)	BEIm=0.75	4.0	1.00		-	
集合住宅の評価(3c)			-		-	
4 効率的運用		2.5	0.20		-	2.5
集合住宅以外の評価		2.5	1.00		-	
4.1 モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制		2.0	0.50		-	
集合住宅の評価			-		-	
4.1 モニタリング			-		-	
4.2 運用管理体制			-		-	
LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護		3.0	0.20		-	3.0
1.1 節水		3.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減		3.3	0.60		-	3.3
2.1 材料使用量の削減		2.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	分別可能な計画としている	5.0	0.20		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.20		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70		-	
1 消火剤		-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50		-	
3 冷媒		3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮	鉄骨造であることで、工期短縮ができCO2排出を抑える	3.7	0.33		-	3.7
2 地域環境への配慮		2.5	0.33		-	2.5
2.1 大気汚染防止		3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善		2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減		-	-		-	
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.33		-	
3 交通負荷抑制	駐輪場、駐車場を適切に配置	5.0	0.33		-	
4 廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.33		-	
3 周辺環境への配慮		2.6	0.33		-	2.6
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40		-	
1 騒音		3.0	0.33		-	
2 振動		3.0	0.33		-	
3 悪臭		3.0	0.33		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		1.6	0.40		-	
1 風害の抑制		1.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制			-		-	
3 日照障害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制		4.0	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	チェックリストの項目の一部を満たし、広告物照明無し	4.0	0.70		-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	カーテンウォールにルーバーを取り付け、反射を低減	4.0	0.30		-	